

認知症に罹患した又は疑いのある知的障害者の支援
の在り方(NPI-ID用いた知的障害者向けBPS
Dプログラム)と感染症について

開催期日 令和3年12月9日(木)～10日(金)

会 場 ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

主 催 ひのくに知的障害児者生活サポート協会

共 催 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

◆高齢知的障がい者で認知症罹患又はその疑いのある人の行動背景要因をチェックし個別支援計画を策定するためのプログラム開発に向けた研究の意見交換会、および新型コロナ等感染症について考える講演会◆

1. はじめに・趣旨

高齢期を迎える知的障害者の増加とともに認知症に罹患する知的障がい者が増え、①物忘れや判断能力の低下、脳神経の低下を直接示す中核症状と②それに伴って現れる精神・行動面の症状である周辺症状 BPSD や、③周囲から入ってくるさまざまな刺激や情報が理解または処理できないことが原因であったり、物事を伝えたいが上手く伝わらなかったり伝える手段がないことが主な原因となって現れる行動障害等の対応とその支援について、職員や介護者は日々悩みながら支援にあたっている。

東京都医学総合研究所が中心になって開発された「DEMBASE」という認知症のケアプログラム、知的障がい者向けにスウェーデンで開発された「FUNCA」というプログラム（認知症だけでなく行動障害の対応にも活用）など、既に導入されているプログラムを、現在の我が国のちてき障害者支援の現場で活用できる形にしたいと、私たちは考えています。

日本では、2018年に建築家の松村正希氏がスウェーデンで「FUNCA」のレクチャーを受けて日本に持ち帰り、翌年に障がい者支援に携わっている人たちとスウェーデンに視察研修に赴いている。その後、視察研修に行った人たちが中心となり、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園（以下、「のぞみの園」と明記する。）と「NPI」等の支援システムが現場で使えるか共同研究を行ってきました。

2020年にはのぞみの園が上記の DEMBASE 開発に携わった研究者や、FUNCA の視察参加者とともに、厚生労働科学研究「障害者の高齢化による状態像の変化に係るアセスメントと支援方法に関するマニュアルの作成のための研究」を行っています。今回は、認知症を糸口に、高齢期の知的障害者の行動・心理症状の把握、支援ニーズの分析、支援計画作成、支援の実践、モニタリングまでの支援プロセスをひとつのプログラムと捉え、高齢期の知的障害者向け BPSD ケアプログラムの開発に向けた研究の一環として、研究の経過報告、試行調査の経過報告を行うとともに、様々な角度から意見交換を行い、開発に向けた検討を行うための意見交換会を行います。

これらの動きと併せて、持続可能な開発目標 SDG s アクションプランでは、ウイズ・コロナ、ポスト・コロナの時代を実現するには、社会全体の行動変容が必要であり、「誰一人取り残さない」との考え方が大切であると、共生社会の実現に向けた障がい者施策の推進が掲げられています。なかでも、新型コロナウイルス感染症危機に対する取り組みが優先課題となっています。今回は、新型コロナ等感染症について考える講演も併せて開催いたします。

2. 主催者 ひのくに知的障害児者生活サポート協会
 3. 共催者 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園
 4. 主管 第二つつじヶ丘学園
 5. 後援 公益財団法人日本知的障害者福祉協会
 一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会
 九州地区知的障害者福祉協会
 熊本県知的障がい者施設協会
 熊本県手をつなぐ育成会
 熊本県知的障がい児者施設家族会連合会
 6. 開催期日 令和3年12月9日(木)～12月10日(金)
 7. 開催場所 ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ
 「ストリングス(B、C利用)」
 熊本市中央区東阿弥陀寺町2番地 ☎ 096-354-2111
 (JR九州「熊本駅」よりタクシーで3分、熊本阿蘇空港よりリムジンバスにて45分、ホテル前バス停「ホテル熊本ニュースカイ前」下車)
 8. 参加対象者 1.知的障がい児者施設職員及びその家族
 2.知的障がい児者生活サポート協会員
 9. 参加定員 150名 (定員になり次第締め切りといたします。)
 10. 参加費 8,000円
 11. 宿泊 100人に限定(県外優先) — ツインルームをシングル利用
 代金一泊一食(朝食)付き 12,400円(全て込み)

12. スケジュール

1日目(12月9日木曜日) 10:00～16:30

受付 9:30～10:00	開会セレモニーと プロローグ 10:00～10:50		休憩 10分	講演Ⅰ 11:00～12:00	昼食 休憩 70分	講演Ⅱ 13:10～14:10
休憩 10分	講演Ⅲ 14:20～15:20	休憩 10分	特別講演 15:30～16:30			

2日目(12月10日金曜日) 9:20～12:00

講演Ⅳ 9:20～10:50	休憩 10分	意見交換会 11:00～12:00	閉会	
-------------------	-----------	----------------------	----	--

13. プログラムの内容

1 日目

開会セレモニーとプロローグ(50分)

社会福祉法人啓明会 障がい児入所施設 天草学園の子供たちの歌
天草学園の子供たちが作詞した「いのちはすごい」を合唱(映像で紹介)

作詞 天草学園の子供たち

補作詞 村上信夫

作曲 中村暢之

歌唱指導 天羽明恵

ピアノ伴奏 子安ゆかり

プロデュース 松村正希

至る経過説明と紹介 松村正希

開会あいさつ:栗崎英雄

講演 I (60分)

テーマ:「高齢知的障害者の加齢にともなう変化と対応についての調査研究の報告—
早期に気づき支援を行うための現状把握—」

高齢障害者に関する先行研究では、高齢知的障害者、特にダウン症者は身体機能の早期の低下や罹患する疾病が多いことや、背景要因として、食事習慣や運動習慣などの関係、本人の訴えに周囲が気づかず対応が手遅れになりやすいことなどが指摘されています。国立のぞみの園では、令和2年度より厚労科研として高齢障害者に関する研究を行っており、これまでの調査等により、高齢知的障害者を支援している事業所では、①認知症の症状等や身体面の機能低下を見過ごしてしまい、適切な支援が後手になっている事例があること、②そもそも、状態像の変化に気づく意義、方法を職員間で共有できていないこと等の課題があることを把握しました。知的障害者の高齢化において、本人の変化に周囲の者が早期に気づき、適切な支援を行うことが重要と考えられます。この課題に対応する糸口として、「高齢期前からの見取りまでを概観できるライフマップ」の作製が重要になると考え、その作成に現在取り組んでいます。

調査研究から把握した、知的障害者の高齢化に伴ともない起こりうる様々な事象と、早期に気づき支援を行うために必要な視点、ライフマップ案の概要等を報告します。

講師:国立重度知的障害者総合施設望みの園 研究部 岡田裕樹氏

講演 II (60分)

テーマ:「NPI-ID使用した高齢障害者向けBPSDケアプログラムの開発に向けた研究の報告—プログラム構築に向けた期待と課題—」

国立のぞみの園では、自身で心身の変化を周囲に上手に伝えることができない高齢障害者等への適切なアセスメント方法と、そのアセスメント結果をもとに適切な支援を提供するためのツールの実用化並びにツールの有効性の検証、研修カリキュラムの開発等を行うことを目的に研究事業を行っています。その一つとして、高齢知的障害者の認知症に伴う行動・心理症状に焦点化した研究を行いました。

本研究では、東京都が進めている日本版BPSDケアプログラム「DEMBASE」を参考に、知的障害者をはじめとする高齢障害者の認知症に伴う心理症状と問題行動に気づき、その背景要因を分析し支援計画に結びつかせるために、高齢障害者向けの「BPSDケアプログラム」の実用化を見据えた検討及び試行を実施しました。

具体的にはプログラムを、①NPI(※)使用した観察・評価、②チェックリストを使用した行動の背景要因の抽出、③冰山モデルを使用したケアチームによるニーズ分析、④50字にまとめたケア計画の策定の4つに分け、ツールの再検討、チェックシート及び記録用紙を高齢障害者向けに調整を行い、実際に研究協力の得られた全国8つの障害者施設で試行を行いました。

その結果、まだ改善する項目はあるものの、支援チームを構築するツールとして一定の評価を得るとともに、実用化に期待を寄せる声が聞かれました。

※東京都が進めている「DEMBASE」ではnpi-NH使用しているが、本研究ではスウェーデンで研究が進められているNPI-ID(知的障害者版)試験的に使用した。

講師:国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 研究部 古屋和彦氏

講演Ⅲ(60分)

テーマ:「認知症ケアの質を最大限に高める日本版BPSDケアプログラム(DEMBASE)について—東京都の取り組みと今後の展望—」

東京都では、公益財団法人東京都医学総合研究所と協働して、スウェーデンのケアプログラムをもとに、日本版BPSDケアプログラムとして「DEMBASE認知症ケアプログラム」を開発しました。

このプログラムは、介護保険事業所や地域において、認知症ケアの質の向上のための取り組みを推進する人材を養成するとともに、BPSDの症状を「見える化」するオンラインシステムを活用し、ケアに関わる担当者の情報共有や一貫したケアの提供をサポートするプログラムです。具体的には、介護保険事業所等においては、ケアプログラムに係る研修を修了したアドミニストレーターを中心として、①NPI(※)評価尺度を用いたBPSDの「観察・評価」、②「背景要因(ニーズ)の分

析)、③ニーズを踏まえた「ケア計画」の策定、④計画に基づくケアの「実行」の4つのステップを繰り返しながら、症状の改善を図っています。「認知症ケアプログラム」とは、関わる介護職への聞き取りにより、その方のBPSD症状の有無や程度をNPIという評価尺度を用いてスコア化し、特に症状が強い部分を中心になぜそのような行動として表出されるのか、本人のストレスや辛さはどこから生じているのかについて議論し、具体的なケア計画を立てるというものです。DEMBASEというICTツールを用いて、症状とケア効果が「見える化」されるのが特徴です。ただし、事業所において、ケアプログラムを利用する場合には、原則として、事業所所在地の区市町村が、ケアプログラムを利用していることが必要です。

※NPI (Neuropsychiatric Inventory)

BPSDの評価において国際的に広く使われており、妄想、幻覚、興奮、鬱、不安、多幸、無関心、脱抑制、易怒性、異常行動、夜間行動、食行動の項目について、それぞれ頻度、重症度を評価する。点数が高いほど頻度、重症度が大きいことを示している。(動画にて)

講師:東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター 西田淳志氏

講演IV(90分)

テーマ:「高齢障害者BPSDケアプログラムの開発に向けた研究の試行調査に参加
してみてもプログラムの良い点、改善点」

国立のぞみの園が行った今回の研究の試行調査に、全国から8つの障害者施設に参加していただきました。今回の意見交換会では、そのなかから、社会福祉法人山陰会 普賢学園、社会福祉法人清流会 氷川学園、第二つつじヶ丘学園 小手毬、の3つの事業所から実践報告を行っていただきます。

具体的には、本研究で試作した高齢障害者向けの「BPSDケアプログラム」の試行を実践し、①NPI(※)を使用した観察・評価、②チェックリストを使用した行動の背景要因の抽出、③冰山モデルを使用したケアチームによるニーズ分析、④50字にまとめたケア計画の策定の4つのプロセスにおいて、良い点、改善するべき点等を話してもらいます。そのうえで、高齢知的障害者の認知症に伴う心理症状と問題行動に気づき、その背景要因を分析し、支援計画に結びつけるためのICTツールとして、実用化に向けての感想と期待を含む意見を聞かせていただきます。

講師(社福)山陰会 普賢学園 本田尚久氏

講師:(社福)清流会 氷川学園 梅田敬二氏

講師(社福)つつじヶ丘学園 第二つつじヶ丘学園 小手毬 小吹太郎氏

司会進行: 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 研究部 古屋和彦氏

意見交換会と質疑(60分)

テーマ:「NPI-ID 使用した高齢障害者向け BPSD ケアプログラムの開発に向けた意見交換会」

司会進行役:国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 研究部長 日詰正文氏
<試行調査参加者>

○(社福)山陰会 普賢学園 本田尚久氏

○(社福)清流会 氷川学園 梅田敬二氏

○(社福)つつじヶ丘学園 第二つつじヶ丘学園小手毬 小吹太郎氏

<研究実施者>

○国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 研究部 古屋和彦氏

○国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 研究部 岡田裕樹氏

新型コロナウイルス対策特別講演

1. テーマ:「建築・環境から見た知的障がい者と新型コロナ等感染症予防について」

知的障がい者の高齢化が進むとともに尿・便失禁の対応が迫られる利用者が増えそのことから起こる感染症を考えることが緊急の課題である。感染症は、新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス、o157 等がある。その要因は、接触感染、飛沫感染、空気感染、媒介物感染に大きく分類することができる。インフルエンザなどは、咳で飛び散った飛沫を吸い込むことで感染する飛沫感染である。空気感染は長時間ふゆうしている飛沫核を吸い込むことで感染する。新型コロナウイルスは空気感染の可能性をWHOは指摘している。ノロウイルスは接触感染や飛沫から感染する。本提案は、尿や便失禁で排出された感染源の軽減及び、コロナ等感染症リスクを建築的に軽減できる環境である。

講師: 猿設計同人 代表取締役 松村正希氏

2. テーマ:「知的障がい者と新型コロナウイルスを含めた感染症予防について」

現在進行形で、国内で170万人以上の感染者を出している新型コロナウイルス、その感染症対策は、密接した空間を避ける、マスクをつける、人と一定の距離を保つ等、ワクチン接種とともに「新しい生活様式」への転換が求められ、事業所は大きな感染リスクを抱えその実行が求められている。知的障害者の感染は重症化リスクが高く、集団感染しやすく、感染すれば深刻な事態を来し、多くの被害を生ずる結果となる、厳しく感染症対策を講じることで、拡大防止に努めなければならない。今日まで「のぞみの園」で行ってきた対策内容、備品の確保、組織体制、情報の共有、職員対応等々の具体的事例について、未知の感染症には更なる情報が必要であるとの認識から、情報提供していきたい。

講師:国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 研究部長 日詰正文氏

14.参加申し込みについて

別紙にて、下記あて令和3年11月19日(金)までにお申し込み下さい。

〒868-0415 熊本県球磨郡あさぎり町免田西 3003 の56番地

第二つつじヶ丘学園

F A X 0966-45-5515

15.参加費及び宿泊代の振り込みについて

下記口座へ振り込みをお願いします。

銀行名:肥後銀行免田支店

預金種:普通預金 口座番号 1423587

口座名:ひのくに生活サポート協会

理事長 栗崎英雄

※振り込みは必ず、施設名と参加者の氏名をお願いします。

※参加申し込み書に記載された個人情報は、本研究会の運営管理の目的のみに使用いたします。なお本研修会は参加者名簿を作成し、それには施設名、役職名、氏名を掲載いたしますご了承ください。

令和3年12月9日～10日研修申込書

令和 年 月 日

県名()		施設・事業所名()		
氏 名	役 職	参 加 費	宿 泊 費	計
計				円

会場での宿泊予約は県外の人を優先します、大変申し訳ございませんが定員 100 名までとさせていただきます。お早めにお申し込みください。参加費、宿泊費は申し込みいただいた後 F a x にて代金を請求させていただきます。項目 15.に記載の指定口座に振り込みをお願いいたします。